

石走る

いわばし

垂水の上の

たるみ

さわらびの

うえ

萌え出づる春に なりにけるかも

も  
い  
は  
る

志貴皇子 卷八・一四一八

し  
き  
の  
み  
こ

まちが 間違えずに よ 読めました! 年月日	あんしょう 暗唱できま した! 年月日
おうちの人に シールをはっ てもらおう	おうちの人に シールをはっ てもらおう



【意味】岩の上を勢いよく流れていく滝。その滝のほとりに早蕨の新芽が萌えて出てくる春になってきたのだなあ。

【解説】「石走る垂水」とは岩の上をしぶきをあげて流れ落ちる滝で、山間の小さな滝が想像されます。春は冬のあいだ降り積もった雪がとけて、たくさん水が川を流れ出します。岩の上を流れるすきとおった水、ほとばしる滝の音。そのほとりに萌えるさわらびの初々しい緑。自然のいのちが響きあいながら早春をむかえていく喜びあふれる歌です。

まんようびと  
万葉人からのメッセージ

いのち躍動する新たな出発のときです